

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-2-4 障がい者の自立支援

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 障がい福祉課長 平岡 昇 電話番号 0852-22-6256

事務事業の名称	障がい者就労支援事業	
目的	(1) 対象	障がい者
	(2) 意図	障がい者の就労を促進するとともに就労支援事業所等を利用する障がい者の工賃向上に取り組む。
事業概要	(1) 福祉施設利用者等の一般就労を促進 障がい者がその能力を十分に発揮し地域で自立した生活ができるよう、障がい者の福祉施設からの一般就労促進を行う。 (2) 就労継続支援B型事業所等の工賃向上 就労継続支援B型事業所等の利用者の工賃向上を図るための支援を行う。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		92.00	104.00	115.00	
式・定義	福祉施設からの一般就労移行者数（単年度）A型事業所を除く	実績値	67.00	80.00	78.00	78.00		人
		達成率		87.00	75.00	67.90		%
指標名	就労継続支援B型事業所等利用者の工賃額	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
		目標値		16,327	17,289	18,024	18,462	円
式・定義	就労継続支援B型事業所等利用者の工賃額	実績値	15,479	17,154	17,921	18,173		円
		達成率		105.10	104.30	100.90		%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	150,195	160,744
うち一般財源(千円)	117,876	117,092

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

(1) 福祉施設利用者等の一般就労を促進
 福祉施設からの一般就労については78人の実績で、目標の115人には届かなかった。A型事業所への福祉就労は19人（対前年度4名増）であった。平成25年度実績 93人（一般就労78人、福祉就労15人）→平成26年度実績 97人（一般就労78人、福祉就労19人）

(2) 工賃向上
 平成26年度の就労継続支援B型事業所の目標平均工賃月額18,024円に対し、18,173円の実績となり、目標を上回っている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・各圏域に設置している障害者就業・生活支援センターを中心に圏域内のハローワーク・特別支援学校・障害福祉サービス事業所・市町村・障害者職業センター等と連携して障がい者の就労移行に取り組み、連携の強い圏域は効果的・効率的な支援に繋がり、就労実績を上げている。
 ・障がい者就労事業振興センターを設置して実施する専門家派遣や販売促進、農福連携の支援、新商品開発等の補助事業の効果が表れている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・一般就労実績に繋がらない
 - ・就労後の定着支援の充実・強化が必要になる
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・障害者就業・生活支援センター登録者数の増と障がいの多様化（平成21年度登録実績 1,058人→平成26年度登録実績 1,651人：1.56倍）
 - ・支援者の定着支援のスキルが低い
- ③原因を解消するための「課題」
- ・障害者就業・生活支援センターを中心に圏域内のネットワークの強化（圏域内障害福祉サービス事業所等との連携）
 - ・県単で養成した職場定着スキルを持つジョブコーチの活用と活動支援策の検討

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・障害者就業・生活支援センターと各圏域内の障害福祉サービス事業所等との連携強化、支援員の定着スキルや資質向上に資する研修等の機会を提供する。県単で養成したジョブコーチ活用の枠組みをつくり、活動に応じた支援制度を検討する。
 ・毎年度の工賃は目標を達成しており、平成27年度以降も、向う3年間の新しい「工賃向上計画」を策定し、引き続き、障がい者就労事業振興センター設置による支援、農福連携の支援、新商品開発等の補助事業を継続する。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）